

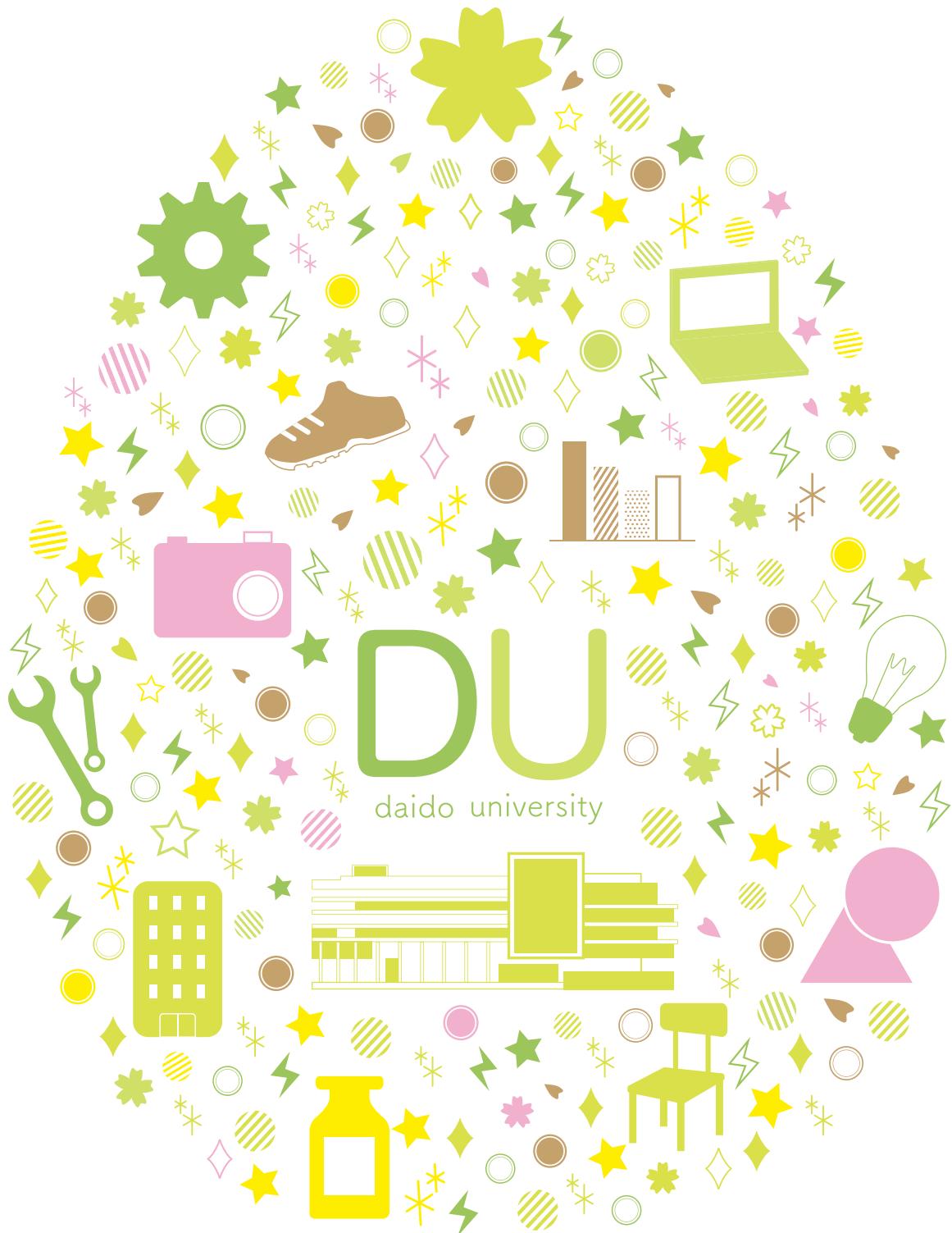
# DAIDO

CAMPUS

ISSUE  
101  
April  
2021

特集

新校舎、ついに完成！ ほか





# 新校舎X棟がついに完成! コンセプトは「生きた教材」!

老朽化した白水校舎の機能を移設し、大学キャンパスの一体化を図ることで、効果的・効率的な大学運営を実現するために立ち上がった新校舎建設計画。2019年5月に着工した新校舎は2020年10月に竣工し、2021年4月に稼働しました。

「X(クロス)」とは、産学、学科、学年を超えて交流することを意味し、「交流」とその賑わいを創出する空間となることを意図して、新校舎は「X(クロス)棟」と名付けられました。

ガラス張りの開放感あふれる外観とB棟に連携する「Dクロスマール」が特徴的な校舎の顔となり、本学の新たなシンボルとして存在感を発揮。設備をむき出しにした天井や随所に木質系や金属系など様々な素材を採用した内装など、「生きた教材」としての工夫が施されています。

今号では新校舎X(クロス)棟の魅力を存分に紹介します。

▲ひとつに集約された大同大学キャンパス  
©FUMITO SUZUKI



▲X棟正面  
©FUMITO SUZUKI

## 生きた教材



### 建築素材サンプル

ケヤキやチェリー、アルミや鉄など建築や土木に使われる素材のサンプルをラウンジに陳列して設置。各々の素材の色合いや質感などを学ぶことができる。



### むき出しの天井

本来天井裏に隠す配管や配線類の設備をむき出しにして、その構造や配置を見るようにしている。



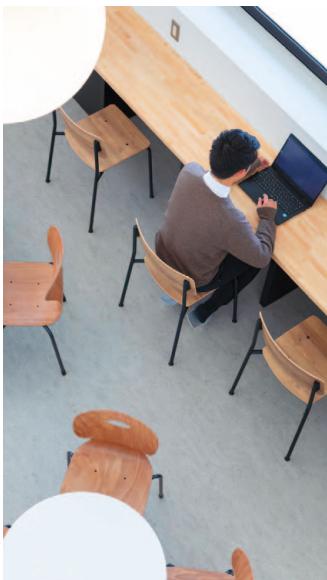
### デザイン性の高い家具

学生ホールやラウンジ等に採用した家具には、カラフルで楽しいカラーリングのものが多く、デザイン的な感性を刺激するだけでなく、女子学生にも居心地の良さを提供。



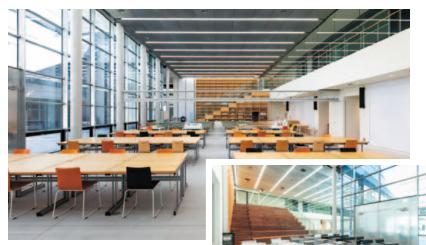
## ラーニングコモンズと ラウンジ

自主的な学びの場であるラーニングコモンズや憩いの場となるラウンジを分散配置し、各階に学生のたまり場を創出。



## Dクロスモール

B棟中央の吹き抜け空間の位置・幅に合わせて連携する筒状の空間「Dクロスモール」。特徴的な校舎の顔となり、本学の新しいシンボルとして存在感を発揮。上空通路を介してつながる教職員・学生の動線の要、“目抜き通り”としても機能。



## スタジオ・ プレゼンテーションホール

2階吹き抜けの大空間「スタジオ」は建築/インテリアデザイン専攻の3クラス分を個別または一体的に利用可能。隣接する「プレゼンテーションホール」は大階段と一体化し、卒業研究の発表などで活用。大階段・講評スペースと、椅子・デスクのあるスペースは、可動壁で仕切ることができる。



## 学生ホール

学生が集い、弁当を広げたり、仲間と交流する場として、自然光を取り入れた開放的で心地よい空間「学生ホール」。木の温もりを感じるフローリングとカラフルな家具が賑わいを演出。



©FUMITO SUZUKI



## 中庭

どこからでもアクセス可能で様々な活動に利用できる「中庭」。1~4階を結ぶ屋外階段を設置し、上層階の外部テラスとの活動とも連携可能。

## 竣工式の様子



2020年11月16日(月)、X棟の竣工式が同施設1階で行われました。式には、大学側から武藤大理事長、神保睦子学長、高村誠一常務理事他が出席。設計を担当した株式会社日建設計、施工を担当した株式会社大林組の関係者とともに神事を執り行い、無事完成を祝いました。新型コロナウイルス感染症に配慮し、規模を縮小して実施しました。

## 注目されるX棟



X棟は世間の注目を集め、多くの取材依頼がありました。読売新聞では、「校舎丸ごと建築素材」とX棟の特徴を大きく報じています。

## 金属レリーフを寄贈して頂きました



澤岡泰子名誉学長夫人から、金属レリーフ2作品を寄贈して頂きました。作品には、伝統技術である「打ち出し」を使用しており、「未来を拓く」というタイトルで学生に向けたメッセージを込めています。



自分が変わる、未来を変える。

## 「DAIDO VISION 2030」が決定! 「自分が変わる、未来を変える。」を 行動指針に新時代がスタート!

大同大学の中期計画の取り組みの一つとして、2020年に「DAIDO VISION 2030」の策定がスタートしました。PJメンバーは30人余りの教職員で構成され、同年10月より約2ヵ月をかけてワークショップを実施し、大同大学の強みや弱みの分析から「未来に向けて大学としてのるべき姿」「どのような人材を育成するべきか」「私たちが提供すべき学びとは」など、立場や組織を越えた議論を重ねました。これらを集約して決定した「DAIDO VISION 2030」。

それが、「自分が変わる、未来を変える。」です。

自らの未来を力強く変えていくというメッセージは、学生だけではなく、私たち教職員も未来に向けて変わっていこうという決意表明でもあります。未来を変える当事者として、学生と教職員が共に成長できる大学を目指します。



## 2021年度入学式を挙行しました

4月1日(木)、本学石井記念体育館で2021年度入学式を挙行しました。

当年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場への入場は新入生のみとして、午前・午後の2部制で実施しました。また、ご家族向けに式典の模様をインターネットにてライブ配信しました。

式では、神保学長が、「大学生活は、高校生までの学生生活と社会に出るまでの間の、人生で最も貴重な時間です。高校生よりも自由がありますが、大人としての責任もあります。しかし、社会に出てからでは体験できない、時間や利益に縛られない、自分の考えで有意義な生活が送れます。大学生活で、勉学やスポーツ、趣味などいろいろな努力をし、経験したことは社会に出てからの貴重な財産となります。大同大学は、そのような財産を築く皆さんのために、最大限の援助を行ないます。コロナウイルス感染症の拡大で、情報化社会の進展が予想を遙かに超えて進みました。この1年で、大学ではオンライン授業が、社会ではテレワーク勤務が一気に浸透しました。まさに社会は劇的に変化しようとしています。そのような社会の変革に対応できるように、自分自身を磨いて下さい。皆さんが大同大学で、貴重な実りある大学生活をおくることを心から願っています。」とエールを送りました。

式後は、在学生による新入生歓迎イベント「WELCOME TO D.U.」が開催され、クラブ紹介やミニゲーム、bingo大会などを行いました。



写真提供：アルバム委員会



森田彩音さん、熊谷誠さん、林夕紀子さん、近藤千晴さん  
(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

## 『アフターコロナの世界 建築／インテリア／プロダクトデザイン設計競技』で入賞しました!



▲受賞した3人の作品(左から森田さん、熊谷さんと林さん、近藤さん)

アフターコロナの世界コンペティション  
実行委員会主催の「アフターコロナの世界  
建築／インテリア／プロダクトデザイン設計  
競技」にて、工学部 建築学科 インテリア  
デザイン専攻 武藤研究室 4年 森田彩音さん、  
熊谷誠さん、林夕紀子さん、3年 近藤  
千晴さんが見事入賞しました!

「アフターコロナの世界 建築／インテリア／  
プロダクトデザイン設計競技」は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を鑑み、  
学生をはじめとする不自由な時間を強いられている多くの方へ「未来」について  
考える機会を提供するものとして開催されました。応募はweb経由、審査もリモート  
によるテレワーク、三賞を決めるディスカッションもZOOMによるミーティングを  
YouTubeで配信するなど、コロナ禍ならではの試みがなされました。このコンペは、  
6名のジャンルの異なる審査員一人ひとりが、入賞賞を選定するコンペティションで、  
2020年10月31日(土)の公開審査ディスカッションにより、それらの  
審査員賞を重複受賞したものの中から、金賞、銀賞、銅賞が選ばれました。森田さんは浅子佳英賞を、熊谷さんと林さんのチームは  
長崎由紀子賞を、近藤さんも鷺田めるる賞を受賞しました!

### アフターコロナの世界 コンペティションのHP

<https://www.aftercoronacompe.net/>

### 各審査員賞の結果

[https://www.aftercoronacompe.net/pdf/afc\\_compe\\_prize.pdf](https://www.aftercoronacompe.net/pdf/afc_compe_prize.pdf)



### 山本倫也さん(機械工学科)

## 第6回オール西日本大学卓球選手権大会 (個人の部)に出場しました

2020年11月3日(火・祝)に第6回オール西日本大学卓球選手権大会(個人  
の部)東海地区予選大会が開催され、工学部 機械工学科 2年 山本倫也さんが  
予選を突破し、12月11日(金)～13日(日)に開催された本大会に出場しました。

本大会に出場する学生は東海学生卓球連盟が定めるリーグの1部・2部に  
所属している大学が多い中、4部に所属する本学の学生が  
予選突破を果たしました。

なお、この大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により  
中止となった全日本大学選手権大会の代替大会となります。

### 第6回オール西日本大学卓球選手権大会(個人の部)

#### 東海地区予選の詳細

<http://www.tsttf.org/file/2020awsyosen.pdf>

#### 実施要項

<http://www.kansai-sttf.net/siaikiroku/2020/2020allwestjapan.pdf>



### 今関香姫さん、中條大地さん(情報デザイン学科)

## 「令和2年度デザインパテントコンテスト」で 優秀賞を受賞しました!

「令和2年度デザインパテントコンテスト(主催:  
独立行政法人 工業所有権情報・研修館)」で、  
情報学部 情報デザイン学科 3年 今関香姫  
さん、中條大地さんが優秀賞を受賞しました!

今年度は754件の応募があり、見事30件の  
入賞者に選ばれました。出品したのは「応用CAD実習A(担当:舟橋慶祐准教授)」  
の課題として、三次元CADを活用しデザイン・製作した木製スプーンで、この授業  
の作品は過去3作品が受賞をしています。また、プロダクトデザイン  
専攻として5年連続の受賞となりました。

### 令和2年度デザインパテントコンテスト

[https://www.inpit.go.jp/patecon/dp\\_results.html](https://www.inpit.go.jp/patecon/dp_results.html)



▲受賞した2人  
今関さん(左)、中條さん(右)



河野花音さん、武内星さん、釜賀一晃さん(情報システム学科)  
**第3回東海地区音声関連研究室卒業論文  
中間発表会にて優秀発表賞を受賞しました**

2020年12月12日(土)に第3回

東海地区音声関連研究室卒業  
論文中間発表会が開催され、情報  
学部 情報システム学科 枝野研究  
室 4年 河野花音さん、武内星さん、  
宮島研究室 4年 釜賀一晃さんの  
3名が優秀発表賞を受賞しました。



▲受賞した河野さん(左)、  
武内さん(右)

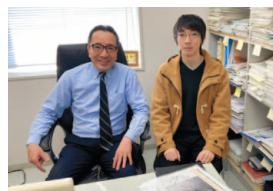


▲受賞した釜賀さん

河野さんと武内さんは「人工音  
声による話者認識器許認可に関する研究」、釜賀さんは「運転データを用いた  
運転映像の要約に関する研究」について発表しました。今年度はオンラインに  
よる開催でしたが、東海地区の公立・私立計6大学の音声情報処理やその他の  
関連研究を行っている研究室が参加し、4年生72名が研究発表を行いました。  
来年度は愛知工業大学にて開催される予定です。

### 福岡稜馬さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## Materials Transactionsに 論文が掲載されました



▲論文が掲載された福岡さん(右)

大学院 工学研究科 修士課程 機械工学  
専攻 2年 福岡稜馬さんが筆頭著者である  
論文が、金属系欧文学術誌“Materials  
Transactions”(2021年2月号)に掲載  
されました。

この論文は、最新の透過型電子顕微鏡  
観察と分子動力学計算の知識を駆使して  
「金属の加工硬化現象」の基本的メカニズムの一部を解明したものです。福岡  
さんの活躍により、学界から高い評価を得ることができ、本学の材料研究のレベル  
の高さがさらに内外に示されることになりました。

#### 掲載巻号

Materials Transactions, Vol.62, No.2 (2021) pp.221-228

#### 論文タイトル

Dislocation Structures Formed inside Dislocation Channels  
of Rapid-Cooled and Tensile-Deformed Aluminum Single Crystals

渡邊稟友さん、三上力也さん、坂口和也さん、辻村浩介さん  
(電気電子工学科)

## 電気学会フォーラムと研究会で 研究発表を行いました



2020年12月12日(土)に電気学会東海  
支部研究フォーラム「電力システムに対する  
雷・自然災害と環境問題に関する研究」が  
オンラインで開催されました。本フォーラムは

東海地区的大学の学生発表会であり、大同  
大学からは、工学部 電気電子工学科 植田研究室 4年 渡邊稟友さん、三上  
力也さんが研究成果を発表しました。渡邊さんの発表題目は「FDTD法による  
鉄塔サージ特性に関する検討」、三上さんの発表題目は「Blitzortung落雷  
位置標定ネットワークの標定精度に関する検討」で名工大や岐阜大など他  
大学の学生らとともに発表を行いました。また2021年1月28日(木)・29日(金)  
には電気学会高電圧研究会がオンラインで開催され、植田研究室 4年 坂口  
和也さん、辻村浩介さんが研究成果を発表しました。坂口さんの発表題目は  
「洋上風力発電機への雷撃特性に関する実験的検討」、辻村さんの発表題目は  
「縮小鉄塔モデルのサージ特性に関する検討」で、全国の研究者に混じって  
発表を行いました。それぞれ慣れないオンライン学会でしたが、練習どおり堂々と  
した発表で、卒業研究のヒントとなる多くの質問コメントをいただき、その後の卒研  
発表に活かされました。

## 機械工学科、大学院 工学研究科 機械工学専攻 大学院生と語るタベ2020を開催しました



▲大学院生と語るタベ2020の様子

工学部 機械工学科の3年生と大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻の院生との交流会「大学院生と語るタベ2020」を開催しました。

進路選択を迎える3年生ですが、大学院の進学に関する情報は、就職に比べそれほど多くありません。このイベントは、進学を検討している3年生が、大学院生の生の声を聞いて学生目線での大学院情報を知るために試みになります。イベントでは、専攻長による大学院の説明、大学院生主催のパネルディスカッション、フリートークによる3年生と大学院生の交流が行われました。

3年生はパネルディスカッションで普段の学生生活を知り、フリートークで聞きたい情報を院生に個別に尋ねることができます。当日は、Mコースの学生とSコースの進学希望の学部3年生が20人、大学院生は11名参加し、交流を深めました。コロナウイルス予防のため、時間を短縮し、フェイスシールド下での開催でしたが、3年生は熱心に大学院生と話をして知りたいことを聞き出していました。

### 情報デザイン学科

## 愛知県学生PJ「GAIA」 情報発信班スタート!

2019年より愛知県環境局が実施している「生物多様性あいち学生プロジェクトGAIA」の情報発信活動の指導を、情報学部情報デザイン学科 上岡和弘教授がつとめる事になり、第1回会議が本学にて行われました。

他のメンバーは、この事業を推進している愛知県環境局職員、事務局のグリーンフロント社、GAIAメンバーの県内他大学学生たちと、情報デザイン学科 桐山岳寛講師、上岡研究室 3年 鈴木貴大さん、桐山研究室 3年 加藤榛華さん、近藤眞世さん、小島研究室 3年 津田雅貴さんです。

愛知県内の様々な生物多様性保全活動や今年度から新たに取り組んでいるGAIA独自の活動を通して、どのように発信していくかを学びながら、情報発信活動を進めていきます。

**あいち学生プロジェクトGAIAはメンバーを募集しています。**

詳しくは愛知県自然環境課HPをご参考下さい。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/2019gakusei.html>



▲「GAIA」のメンバー

### 宮本潤示研究室(機械工学科)

## 進路相談会を開催しました

2020年12月9日(水)に工学部 機械工学科 宮本研究室で進路相談会を開催しました。

相談会は3年生の進路に関する様々な不安や疑問を解消することを目的とし、4年生の有志が企画しました。

企画した宮本研究室 4年 笹岡俊輔さんは、「今年はコロナウイルスの影響で、3年生は例年以上に不安を感じていると思います。オンライン説明会やチャット型説明会などコロナ禍における就職活動を経験した先輩の意見は参考になると思いました。また、研究室メンバーの親睦も深まるのではないかと思い企画しました」と語っています。

4年生は3年生の相談に対し親身になって耳を傾け、3年生にとっては非常に有意義な機会になりました。



▶進路相談会の様子

### 建築学科 土木・環境専攻

## 授業成果展示会を開催しました

1月21日(木)～2月3日(水)の期間で、工学部 建築学科 土木・環境専攻による2020年度後期授業成果展示会を開催しました。

ランドスケープ設計(2年)、CAD演習2(2年)、都市開発プラン実習(3年)の授業で作成したものが展示されました。

都市開発プラン実習では岐阜県可児市の名鉄広見線新可児駅西側地区を題材とし、飲食店や商業施設などを設置するなど、学生1人ひとりが考案したコンセプトに基づいたプランが設計されました。



▲授業で製作した作品



▲授業で製作した作品

### 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻

## 卒業研究発表会を行いました

2月3日(水)～2月4日(木)の2日間で工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻の4年生による卒業研究発表会がX(クロス)棟で行われ、それぞれの専攻の学生が創意工夫して取り組んだ成果を発表しました。

完成したばかりのX棟で発表することができたことは、卒業を間近に控えた4年生にとってよい思い出になりました。



▲卒業研究発表の様子



▲卒業設計作品の展示の様子

田中浩司教授(機械工学科)

## R&D 100 Award(Mechanical/Materials category)

2020年9月30日(水)に工学部 機械工学科 田中浩司教授が前職で携わっていた技術がオンラインで開催されたR&D 100 Awardに入賞しました。R&D 100 Awardとは、米国のR&Dマガジン社が主催し、過去1年間に実用化された優秀な製品・技術を100件選出するものです。今回の対象技術は「Cobalt-free laser-clad valve seat in fuel-flexible hybrid electric vehicles」であり、自動車エンジン用バルブシートに関するものです。耐熱・耐摩耗合金の希少元素コバルトを含まないこと、ストレート吸気ポートの実現で高効率エンジンを開発したこと、またバイオエタノール混合燃料に対応し、世界各地のハイブリッド車に展開できるようになったことが評価されました。

Coフリー合金はレーザ肉盛りによってバルブシートとなり、高温の

排ガスに晒されながらバルブの着座を受け止める。田中教授は、トヨタ自動車の開発陣とともに開発に関わり、2017年にカムリへ搭載。その後、TNGA(Toyota New Global Architecture)を象徴するパワートレーンとなり、国内外で広く量産されています。



### 新型パワートレーンの特長について

<https://global.toyota.jp/mobility/tnga/powertrain2018/>

### 機械/材料部門のR&D Awardの受賞者

<https://www.rdworlondonline.com/rd-100-award-winners-announced-in-mechanical-materials-category/>

西脇武志教授(機械工学科)

## 日本塑性加工学会賞の論文賞を受賞しました

工学部 機械工学科 西脇武志教授が、日本塑性加工学会賞の論文賞を受賞しました。論文名は「曲げ試験と切欠付丸棒引張試験を用いた冷間据込み加工の表面割れ予測」で、名古屋市工業研究所と岐阜大学との共同研究の成果になります。鍛造における破壊予測には、材料の延性破壊パラメータが不可欠ですが、曲げ試験と切欠付丸棒引張試験の材料試験結果から逆解析を用いてそのパラメータを同定しました。このパラメータは、応力状態によって値が変わるために、曲げ試験と切欠付丸棒引張試験を組み合わせて



▲論文賞のメダルと賞状

幅広い範囲でのパラメータを取得しました。この手法により、様々な加工形態での鍛造の破壊予測がCAEを用いて可能になり、生産プロセスにおける開発期間の短縮やコストダウンが可能になります。

鷲見哲也教授(建築学科 土木・環境専攻)

## 10/13(火)朝日新聞に鷲見哲也教授の紹介が掲載されました

2020年10月13日(火)の朝日新聞朝刊に地域総合面「研究室から」のコーナーで、工学部 建築学科 土木・環境専攻 鷲見哲也教授の研究が紹介されました。

鷲見教授は流域水文学(すいもんがく)を専門として、水に関する幅広い研究を行っていますが、中でも地域での水の災害に関する研究をすすめており、2008年の岡崎豪雨や2010年の可児川の氾濫など、中小河川の調査を行ってきています。この記事では、南区を流れる天白川氾濫に対して有効に避難行動へ移れるように、流域での雨・水位の変化の状況を予測できるモデルの確立を目指していること、水に関する情報の把握の重要さ、などが紹介されていました。



▲10月13日(火)付 朝日新聞

光田恵教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

## 介護の日しんぶん2020に「介護のにおい対策」の記事が掲載されました

介護の日しんぶん2020の11月11号に工学部 建築学科 かおりデザイン専攻 光田恵教授の記事「介護のにおい対策」が掲載されました。

記事では、適切なおむつ処理や換気、消臭対策用品の活用の仕方など、介護現場で家族や介護職員が心理的負担を感じる一因である排泄物などのにおい問題の現状と対策について解説しています。



光田恵教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

## 日経ヘルス12月号に「においのもとを見極めて換気と消臭で対策」の記事が掲載されました

日経ヘルス12月号の特集「においのもとを見極めて換気と消臭で対策」を工学部 建築学科 かおりデザイン専攻 光田恵教授が監修しました。

特集では、家のにおいの発生原因、また不快なにおいを抑える最も効果的な方法など、「室内のにおいを消す5ヶ条」を紹介しています。



### 日経ヘルスHP

<https://info.nikkeibp.co.jp/media/NH/>

佐藤壮一郎教授(総合情報学科 スポーツ情報コース)

## JOCナショナルコーチアカデミー 課程を修了しました



▲ナショナルコーチアカデミーの修了証

日本オリンピック委員会(JOC)によるスポーツアカデミー事業ナショナルコーチアカデミーの課程を情報学部総合情報学科 スポーツ情報コース 佐藤壮一郎教授が修了しました。

この課程は、各競技種目のトップコーチ・スタッフが、「コーチング」「マネジメント」「コミュニケーション」等のカリキュラムやケースメソッドを通して経験や知見を交換し合える環境をつくる

ことにより、オリンピックをはじめとする国際総合競技大会に派遣するコーチ・スタッフの更なる資質向上を目的としています。

この課程を修了すると、日本最高峰のコーチ資格を得たということになります。

### ナショナルコーチアカデミーについて

<https://www.joc.or.jp/training/ntc/nationalacademy.html>



棚村壽三准教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

## フジテレビ「ホンマでっか!?TV」に 出演しました

2020年11月4日(水)と、2021年1月13日(水)に放送されたフジテレビ「ホンマでっか!?TV」に工学部 建築学科 かおりデザイン専攻 棚村壽三准教授が出演しました。

この番組は、毎週水曜日の午後9時～放送されています。番組内のコーナーで、棚村准教授は「におい」について解説をしました。

### 番組公式HP

<https://www.fujitv.co.jp/honma-dekka/>



澤岡昭名誉学長

## 『「いのち」のルーツを宇宙にもとめて』について講演しました

名古屋市民大学講座(名古屋市教育委員会・大同大学共催)で澤岡昭名誉学長が講演されました。

『「いのち」のルーツを宇宙にもとめて』をテーマに、宇宙・銀河系誕生、地球での「タンパク質生成」の諸説、「はやぶさ2」がもたらす「アミノ酸」痕跡の探査への期待など、各国の宇宙開発の秘話を織り交ぜて説明されました。

折しも、野口飛行士のクルードラゴンの国際宇宙ステーションへのドッキング成功もあり、受講されていた方々からの質問は、スペースX社の運用によって、①どんなことが変わってきたか、また、新型コロナに関連して、②「はやぶさ2の帰還」に際しての「地球外ウイルス」の

中島貴光准教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

## 「世界劇場会議名古屋 フォーラム 2020」で副実行委員長を務めました

2020年11月16日(月)に名古屋市公会堂大ホールにて、「世界劇場会議名古屋フォーラム2020」が開催され、工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 中島貴光准教授が副実行委員長を務めました。また、第2部の「名古屋市公会堂のリニューアルについて」ではパネルディスカッションの進行役として登壇しました。

世界劇場会議名古屋HP:<http://itc-nagoya.com/>  
フォーラム詳細

<http://itc-nagoya.com/itc/international/forum/details.php?bid=33>



▲副実行委員長を務めた中島貴光教授



上岡和弘教授(情報デザイン学科)

## 第1回就活力支援セミナー

## 「就職力アップ講座」で講演しました

2020年11月21日(土)に東海市商工センターで開催された「第1回就活力支援セミナー 就活力アップ講座」で、情報学部 情報デザイン学科 上岡和弘教授が講演を行いました。第1回のこの講座は、中日新聞社の後援と、東海市商工会議所、(株)流行発信の協力によって、中日新聞社記者福本氏、ミツカングループ沢田氏、本学上岡教授の3名による講演と、東海商業高校佐藤校長による質疑コーナーが行われました。上岡教授は、自身の専門分野であるコミュニケーションデザインの視点から、コロナ禍で変化してきた就活事情を見据えたセルフプロデュース力について講演し、県内学生約40名が参加し熱心にメモを取り、質問をしていました。

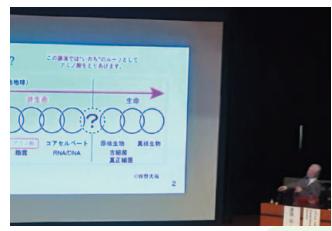


除去対策、その他にも、③宇宙の

膨張説の真偽と行方、④「はやぶさ2」に続く日本の宇宙開発計画など、関心の高さが感じられる内容について寄せられていました。

〈開催〉2020年11月18日(水)

会場:イーブルなごや



▲講演の様子

会場では新型コロナの感染拡大の兆しのなか、受講者の大幅な人数抑制・座席指定、マスク着用など万全な予防対策のなか実施されました。

澤岡昭名誉学長

## 南生涯学習センターとの連携講座で講演をしました



▲講演の様子

名古屋市生涯学習：南生涯学習センターとの全4回の『宇宙開発最前線』をテーマとした連携講座が2020年11月26日(木)に始まり、澤岡昭名誉学長が講演しました。

第1回目は、『帰還が間近な“はやぶさ2”』を取り上げ、「初号機 はやぶさ」から引き継がれた「夢へのバトン」、「リスク対処力(技術)」、「チーム醸成法(異能集団)」など、技術者たちの実話を例に講演を展開してきました。

今回の連携講座は、新型コロナウイルス感染症対策として名古屋市生涯学習が取り組む講座の中で、初めてのリモート出演となりました。

資料映像も鮮明であり、相互の情報交換や質問などもスムーズに運営され、受講者の方々からの感想も上々でした。

## &lt;連携講座&gt;

- 第1回(11月26日) 『帰還が間近な“はやぶさ2”』
- 第2回(12月3日) 『日本のロケット開発』
- 第3回(12月10日) 『民間のロケットにも搭乗する日本人飛行士の活躍』
- 第4回(12月17日) 『日本人飛行士も参加する月探査計画』

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

## 12/22(火)中日新聞にコメントが掲載されました

2020年12月22日(火)の中日新聞に情報学部 総合情報学科 経営情報コース 大東憲二教授の「エコ縁日」についてのコメントが掲載されました。

「地域の環境を考える会」の代表である大東教授は、12月



▲12月22日(火)付 中日新聞

20日(日)に主催した「エコ縁日」について、「子供たちが自然に触れ合って、生物多様性を少しでも認識してもらえば」とコメントしました。

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

## 「生物多様性とSDGs 多世代フォーラム」で ファシリテーターを務めました



2月5日(金)午前10時45分からAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)にて開催された「生物多様性とSDGs 多世代フォーラム」で情報学部 総合情報学科 経営情報コース 大東憲二教授が第1部の「生物多様性とSDGs シンポジウム」でファシリテーターを務めました。

◀「生物多様性とSDGs 多世代フォーラム」のチラシ

桐山岳寛講師(情報デザイン学科)

## 情報デザイン学科のパンフレットが米国のデザイン賞を受賞しました

情報デザイン学科を紹介するミニパンフレットが、米国のデザイン団体GDUSAが主催するデザインコンテストで「2020 American Graphic Design Awards」を、米国のデザイン団体IDAが主催するデザインコンテスト「IDA Design Awards 2020」で銅賞(Print-Zines And Flyers部門)を受賞しました。この作品は、情報学部 情報デザイン学科 桐山岳寛講師により作成され、オープンキャンパスなどで配布しました。作品は同団体が発行する年鑑に掲載され全米や、世界各地に配布される予定です。

米国のデザイン団体GDUSAが主催する

## デザインコンテスト

<http://contests.gdusa.com/gdusa-contest-winner?cc=agda20&ids=0|11189&iy=&im=>



井原禎貴教授(機械システム工学科)

## 講習会「ハイブリッドを中心とした次世代パワートレイン技術」を企画・実施しました

工学部 機械システム工学科 井原禎貴教授が日本機械学会エンジンシステム部門の講習会企画委員長として、1月15日(金)に講習会「ハイブリッドを中心とした次世代パワートレイン技術」を企画・実施しました。

本講習会では、乗用車から大型の建機や鉄道用エンジンまで、様々なアプリケーションで実用化されているハイブリッドシステムとそのエンジンについて、各分野の専門の方にこれまでの経緯や最新の研究成果を交えて紹介していただきました。我々にもおなじみの乗用車から、鉄道用の機動車や建築機械用の重機まで、それぞれの用途に応じて理論や技術の違い・今後の展望を知ることができ、また専門家を交えて議論することができました。例年と異なりオンラインで実施したため、準備に時間がかかりましたが当日の通信状況が気がかりであった一方、日本各地から多くの参加者がおり、講師の方々にも当日移動の負担が少ないと好評でした。

## 講習会の詳細

<https://www.jsme.or.jp/event/20-97/>



佐藤壮一郎教授(総合情報学科 スポーツ情報コース)

## 中日新聞にコメントが掲載されました

中日新聞に情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 佐藤壮一郎教授の男子ハンドボール世界選手権についてのコメントが掲載されました。

ジュニア世代の日本代表の責任者である佐藤教授は、クロアチア戦については「引いて守ってロースコアに持ち込むのではなく、走り合い、打ち合った。この戦い方で引き分けに持ち込んだことに価値があり、今後につながる」と、バーレーン戦については「以前は無理なシュートが決まらず、逆にピンチを招いていた。今大会は試合での落ち着きを感じる。冷静さが保てているから、場面の判断が良くなり、決まりやすい状況でシュートに行けている」とコメントしました。



▲1月16(土)付 中日新聞



▲1月26(火)付 中日新聞

佐藤壮一郎教授(総合情報学科 スポーツ情報コース)

## 11/3(火・祝)中日新聞朝刊にコメントが掲載されました



▲11月3日(火・祝)付 中日新聞

が企画した代替大会である「東海学生ハンドボール選手権」について、「できないことをあきらめるんじゃなく、できることを何とか考えてがんばる。大会開催を通じて、あきらめない大切さをあらためて再確認させてもらった」とコメントしました。

なお、大同大学の男子・女子ハンドボール部とともにベスト4に輝きました。

### 大会の詳細

[https://www.daido-news.jp/daido\\_news/notice/post-374.html](https://www.daido-news.jp/daido_news/notice/post-374.html)



桐山岳寛講師(情報デザイン学科)

## JICA海外協力隊候補者向け研修で講師を務めました

独立行政法人国際協力機構が派遣する「JICA海外協力隊」の派遣前訓練の一環として、公益社団法人青年海外協力協会が主催する講義「情報伝達の基本～スライドや文書のデザインを考える～」で、情報学部 情報デザイン学科 桐山岳寛講師が講師を務めました。

世界の発展途上国に派遣されるボランティア候補者の任地での円滑なコミュニケーションを促すことを目的に、200人を越える希望者に対しZoomによるオンライン形式で実施されました。自身の研究分野である「デザイン」に、海外での経験談を交えながら、情報伝達の質向上のための考え方や手法を紹介しました。

神保睦子学長

## 「女性が拓く工学の未来」で基調講演をしました

2020年12月  
18日(金)～2021年  
1月11日(月・祝)に  
「女性が拓く工学  
の未来」がオンラ  
インで開催されま  
した。

この講演は、工学  
系進路支援イベント  
で、神保睦子学長が基調講演をしました。



▲「女性が拓く工学の未来」のチラシ

このイベントの対象者は、女子中高生または工学系大学院進学を考える女子大学生です。

井上孝司名誉教授(機械工学科)

## 東海テレビ「スイッチ!」に出演しました

2月22日(月)に放送された東海テレビ「スイッチ!」に工学部 機械工学科 井上孝司名誉教授がリモート出演しました。この番組は毎週月曜～金曜の午前9時50分～放送されています。

番組内の「家事力向上委員会」というコーナーで「肌について油性マジックを簡単に落とす方法は?」というお題に対し、「マッチの頭薬(赤い部分)に水につけこする」という方法を伝授しました。

### 番組公式HP

<https://www.tokai-tv.com/switch/>



## 知多半島生態系ネットワークフォーラム 「知多半島ミライAction Day」を開催しました

2020年12月4日(金)、本学において「知多半島生態系ネットワークフォーラム 知多半島ミライ Action Day」を開催しました。



▲フォーラムの様子

今回は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、リアル会場参加を抑えつつ、リモートでの配信も行いました。

メインテーマとして地球温暖化による生態系への影響を取り上げ、知多半島に立地する企業の取り組みの紹介や学生による提言などが行われました。映像を中心とした分かりやすい内容で、地球温暖化抑制の啓蒙活動として役立てることができました。

**林祐太郎技術補助員、坂雄太技術補助員  
(2017年度卒業 情報デザイン学科)**

## 東京国際プロジェクトマッピングアワード Vol.5 U-25部門で最優秀賞を受賞しました



▲林祐太郎技術補助員、坂雄太技術補助員率いるチームメンバー  
坂雄太さんのチームが最優秀賞を受賞しました。当日のイベントの模様は公式サイト内の特設ページ、YouTube、Twitter(Periscope)で配信され、合計214,724人の方に視聴されました。

本アワードは空間映像クリエイターの発掘と育成を目的に、2016年から開催されている日本最大級の映像コンテストとなっており、林さん、坂さんも2017年に開催されたVol.2の学生部門に、Harada:Labとして参加しましたが惜しくも入賞には至りませんでした。今回U25部門が新設され、最後のチャンスとして臨んだ結果、最優秀賞を受賞することができました。

林さんは映像制作会社、坂さんはWEBデザイン会社の勤務を経て、現在は技術補助員として本学学生のサポートをさせてもらっています。今回の受賞を経てさらにステップアップしてくれることだと思います。

**男子ハンドボール部**

## 大同インカレを開催しました

大同インカレとは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で今シーズンほとんど試合に出場することのできなかった4年生に何か最後の舞台を創り出したいと3年生以下で考え、準備した大会です。

試合はトーナメント方式で行い、各試合でMOM(その試合最も活躍した選手)と陰の立役者を表彰しました。

チーム全員で大会を全力で楽しむことができ、素晴らしい大会になったのではないかと思っています。

**掲載記事**

<https://daidodaigakuhand.jimdofree.com/>  
大同インカレ/MOM・陰の立役者/



## 大橋佑基さん(2019年度卒業 情報システム学科) 電気学会論文誌Cに論文が掲載されました

2019年度情報システム学科の卒業生、大橋佑基さんが在学中に研究を行い、投稿した論文「色覚多様性のための焼肉の色を見分けやすくする画像加工スマートフォンアプリケーション開発」が電気学会論文誌C(2021年 141巻2号 p.214-220)に掲載されました。

赤と緑の区別がつきにくい二色覚の人は、焼肉において焼け具合が分かり難いことが報告されています。この問題に対して、焼肉をスマートフォンのカメラで撮影し、焼肉の色を見分けやすくする画像加工を行い画面に表示することによって、肉の焼き色から焼き加減を判断できるようにするアプリケーションを開発しました。5種類の画像加工に対してどれが適しているかを実験により示しました。

### 論文について

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejeiss/141/2/141\\_214/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejeiss/141/2/141_214/_article/-char/ja)



**武藤大理事長**

## 進路指導・キャリア教育専門誌 『Career Guidance』に インタビュー記事が掲載されました

株式会社リクルートが発行する高校教員のための進路指導・キャリア教育専門誌『Career Guidance』に武藤大理事長のインタビュー記事が掲載されました。

記事の中で、武藤理事長は本学の将来像とともに、タグライン「自分が変わる、未来を変える。」に込められた思いについて語っています。

### 掲載記事

<https://shingakunet.com/ebook/cg/436/html5.html#page=53>



## 「大学機関別認証評価」の 認定を受けました



2004年4月から、学校教育法第109条(第2項)により、全ての大学は教育・研究等の状況について7年毎に文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務付けられました。

大同大学は、2020年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、2021年3月付で「大学評価基準に適合している」と認定されました。

本学は、今回の認証評価でご指摘をいたいたご意見のみならず、改善・向上方策に対しても積極的に取り組み、教育・研究の質の維持・向上に努めてまいります。

### 関連サイト

<https://www.daido-it.ac.jp/outline/evaluation/>



建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻/プロダクトデザイン専攻

## X4デザイン専攻リレー展示を開催しました

「X4デザイン専攻リレー展示」とは、大同大学の建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻、情報デザイン学科 メディアデザイン専攻/プロダクトデザイン専攻の4つの専攻からなるリレー展示です。卒業制作作品から選抜された学生作品や、リレー展示のために学生たちが4年間の集大成として取り組んだ作品が各所で発表されました。

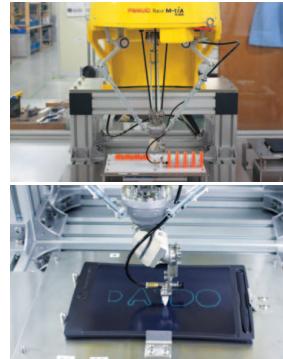


### 機械システム工学科

## 実習で使うロボットが新しくなりました!

2006年度ロボティクス科(現在:機械システム工学科)でFANUC社製の産業用ロボット(全4台)を購入し、そこから14年間、機械工学実験、ロボットプログラミング等の授業や卒業研究などで使用してきましたが、ロボットの老朽化により、FANUC社から故障の予兆があると指摘され、ロボットを新しくしました。

授業等で使うのは、垂直多関節型ロボット、パラレルリンク式ロボットという産業ロボットです。垂直多関節型ロボットは、6つの関節があり、好きな方向・場所に動かすことが出来、世の中で一番使われている最新ものです。パラレルリンク式ロボットは、並列にロボットのアームがあり、それを動かし狭い範囲での迅速な作業や細かな作業に向いているものです。この2種類のロボットは、実験室では安全装置が付いたガラスの囲いに入っています、ロボットが人に危害を加えないための工夫として、安全装置をはずすとロボットは緊急停止するようになっています。



▲新しくなった実習用ロボット

### 教養部

## 「特別活動研究」の授業で、遠隔ライブのHR活動を実施しました



▲遠隔ライブHR活動の様子

1月14日(木)1限、教職科目「特別活動研究」(4年後期)の授業で、遠隔ライブのHR活動を実施しました。

「特別活動研究」という科目は、中学や高校で行われる学級(HR)活動や生徒会活動、学校行事などについて学ぶ科目です。それを実践的に学ぶという主旨で、毎年、第15回

授業で受講生たちが企画・運営するHR活動(題して「最後のHR」)を実施してきました。例年であれば、授業中に話し合ったりして少しづつ準備を進めていき当日を迎えるのですが、今年はすべて遠隔授業となつたため、受講生全員による「紙上討論」の形で実施の有無も含めて議論をしていきました。

11月に入ってコロナ感染が急拡大すると、それまで多かった「対面で実施」という意見が一気に「中止」または「遠隔で実施」に傾きました。

そこで、将来、学校現場に導入されるかもしれない「遠隔HR」の可能性を探ることを主旨に加え、「遠隔で実施。ただし複数の運営委員が立候補することが条件」という案を提案したところ、6名が名乗り出てくれました。

彼らが考えた案は、今はやりの「脱出ゲーム」を4年間の教職の授業をもとにオリジナルで作成し、受講生全員で協力してその「謎」を解き「脱出」するというもの。原案を紙上討論に掛け合意を得ていくとともに、運営委員は冬休み返上で、演出・謎づくり・撮影・ネット環境の確認・デバッグ等々に精力を費やしてくれました。

実施当日、本部となる久田研究室に集合。配信・司会・トラブル対応等々、すべて彼らの手によって運営されました。大変寒かったです、感染防止のため遮蔽板をたて研究室の窓とドアは開けっぱなし。事後、受講生から、ゲームのクオリティの高さに対する感嘆と準備してくれた運営委員への労いとともに、実際のHR活動への応用可能性などについて様々な意見が寄せられました。



## 2020年度 学位記授与式を挙行しました

3月19日(金)、本学石井記念体育館で学位記授与式を挙行しました。

当年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場への入場は卒業生・修了生のみとして、午前・午後の2部制で実施しました。また、ご家族向けに式典の模様をインターネットにてライブ配信しました。

式では、神保学長が、「卒業は新たな門出です。新型コロナウイルス感染症が、日本だけでなく世界的に猛威を振るっています。これからは、さらに予測できない状況が増加していくと予想されます。しかし、そのような時に、冷静に判断を行い行動できる人間になって下さい。みなさんの人生はこれからです。自分の満足できる人生を送って下さい。そして、ふと立ち止まり迷うとき、大同大学を思い出し、相談に来て下さい。大同大学は、いつまでも皆さんとともにあります。健康に気をつけ、家族や友人を大切にし、これから的人生を送られることを心から願っています。」と告辞を述べました。



### 学長賞(学業)

学科・専攻	氏名	指導教員
機械工学科	中村 紗	徳納 一成
機械工学科	笹岡 俊輔	宮本 潤示
総合機械工学科	野本 達彦	溝口 正信
総合機械工学科	竹内 靖昌	尾形 和哉
電気電子工学科	浅見 奎介	加納 善明
電気電子工学科	中越 雅斗	大澤 文明
建築専攻	法範 龍一	武藤 隆
インテリアデザイン専攻	林 夕紀子	武藤 隆
土木・環境専攻	安部 友規	棚橋 秀行
コンピュータサイエンス専攻	荻原 豊	荻原 正雄
情報ネットワーク専攻	杉浦 直樹	君山 博之
メディアデザイン専攻	伊藤 肇	原田 昌明
プロダクトデザイン専攻	浅井 美沙	岡田 心
経営情報専攻	太田 知花	大東 憲二
かおりデザイン専攻	野村 真広	光田 恵

### 学長賞(課外活動)

所属	氏名	顧問等
ロボット研究部	田村 耕大	大嶋 和彦
男子ハンドボール部	平井 亮多	佐藤 壮一郎

### 学長賞(大学院)

専攻	氏名	指導教員
機械工学専攻	杉原 拓実	前田 安郭
機械工学専攻	宮下 慎之介	井原 穎貴
建築学専攻	永田 嶽将	宇野 享
建築学専攻	中村 大輝	宇野 享
都市環境デザイン学専攻	伊牟田 凌雅	光田 恵
都市環境デザイン学専攻	出口 智也	鷗田 喜昭
情報学専攻	田中 義弘	宮島 千代美
情報学専攻	福田 充	横山 弥生

### 学会賞(学部)

学会・賞名	氏名	指導教員
日本機械学会 嶋山賞	水野 旭	前田 安郭
日本機械学会 嶋山賞	高田 晃希	前田 安郭
日本設計学会 武藤栄次賞 優秀学生賞	櫻井 基樹	西脇 武志

### 学会賞(大学院)

学会・賞名	氏名	指導教員
日本機械学会 三浦賞	福岡 稔馬	徳納 一成
自動車技術会 大学院研究奨励賞	後岡 一騎	西脇 武志
日本設計学会 武藤栄次賞 優秀学生賞	横井 崇史	宮本 潤示
日本鋳造工学会 研究奨励賞	尾崎 太一	前田 安郭
日本鋳造工学会 研究奨励賞	杉原 拓実	前田 安郭
日本鋳造工学会 研究奨励賞	安江 拓哉	前田 安郭

## 新任教員紹介



**服部 佳晋 教授**

工学部 電気電子工学科

4/1に着任しました。前職は(株)豊田中央研究所で、30数年過ごしました。教員になるのは初めてです。初心に戻って多くのことを吸収し、学生と一緒に成長したいと思います。目の輝くやる気にあふれる学生を一人でも多く育てるよう頑張ります。ご指導、よろしくお願ひいたします。



**浦井 一 教授**

工学部 電気電子工学科

電気電子工学科に着任しました浦井です。前職は(株)日立製作所の研究開発部門所属で、高電圧遮断器(送電用ブレーカ)の研究開発を24年間担当してきました。専門は電力工学、高電圧工学、プラズマ工学です。産業界での経験を活かして、実学の教育と研究で、社会に貢献できるエンジニアを育てたいと思っています。



**藤井 浩明 教授**

情報学部 総合情報学科

総合情報学科に着任いたしました藤井です。専門は企業の人事制度や労使関係です。近年は業績連動型賞与や従業員代表制度について研究を行っています。皆さんと一緒に楽しく研究をしながら、共に成長していきたいと思います。よろしくお願いします。



**加藤 聰一 教授**

教養部 教職教室

北名古屋市に住んでいます。熊之庄の水田を冬期湛水化して教育資源にする「ゆめ」がありました(まだあります)。自己紹介は、原始的ながらホームページがあるので「加藤聰一研究室」で検索してご覧下さい。



**神谷 康夫 教授**

教養部 教職教室

学生の皆さんの爽やかな挨拶と恵まれた施設のおかげで新鮮な喜びに浸りながら、自分のモチベーションの高まりを感じています。これまでの経験で培ってきたことを基に、若い皆さんとともに全力で学びながら、皆さんの力になりたいと願っています。

## 人事

### ●退職

**【法人本部・大学】  
〈教育職員〉(2021.3.31)**

堀尾 吉巳 (工学部 電気電子工学科 教授)  
高木 康夫 (工学部 電気電子工学科 教授)  
久田 晴生 (教養部 教授)  
木場 裕紀 (教養部 講師)  
池田 洋一 (工学部 機械工学科 特任教員)  
大石 弥幸 (情報学部 情報システム学科 特任教員)  
本田 隆司 (情報学部 情報システム学科 特任教員)  
上田 英靖 (教養部 特任教員)

**〈事務職員〉(2021.3.31)**

児玉 鉄男 (大学事務部長)  
林 昇 (企画調整部 情報室)

### ●採用

**【法人本部・大学】  
〈教育職員〉(2021.4.1)**

浦井 一 工学部 電気電子工学科 教授  
服部 佳晋 工学部 電気電子工学科 教授  
藤井 浩明 情報学部 総合情報学科 教授  
加藤 聰一 教養部 教授  
神谷 康夫 教養部 教授  
堀尾 吉巳 工学部 電気電子工学科 特任教員  
(任期:2021.4.1 ~ 2022.3.31)

高木 康夫 工学部 電気電子工学科 特任教員  
(任期:2021.4.1 ~ 2022.3.31)  
山口 一 工学部 建築学科 特任教員  
併任 情報学部 総合情報学科 特任教員  
(任期:2021.4.1 ~ 2022.3.31)  
高木 基充 情報学部 情報デザイン学科 特任教員  
(任期:2021.4.1 ~ 2022.3.31)  
久田 晴生 教養部 特任教員  
(任期:2021.4.1 ~ 2022.3.31)

**〈事務職員〉(2021.4.1)**

徳永 彩乃 大学事務部 教務室  
吉川 綾美 企画調整部 経理室

### ●昇任

**【法人本部・大学】**

**〈教育職員〉(2021.4.1)**

宮島 千代美 情報学部 情報システム学科 教授  
米澤 隆 工学部 建築学科 准教授  
樋口 恵一 工学部 建築学科 准教授  
**〈事務職員〉(2021.4.1)**  
大脇 崇浩 大学事務部長(部長待遇)  
肥田 聰 総務部 人事室長(部長待遇)  
伊藤 雅士 大学事務部 学生室長(次長待遇)  
森川 博光 企画調整部 入試・広報室長(次長待遇)  
松井 健之 大学事務部 学務室長(次長待遇)  
山形 容子 大学事務部 図書館室長(課長待遇)

野島 大策 企画調整部 経理室長(課長待遇)  
伊藤 誠悟 総務部 管財室(主査待遇)  
西村 勇樹 総務部 管財室(主査待遇)  
川角 匡史 総務部 人事室(主査待遇)

### ●異動

**【大学】  
〈教育職員〉(2021.4.1)**

鈴田 尚哉 工学部 建築学科 教授  
併任 情報学部 総合情報学科 教授  
宮島 千代美 情報学部 情報システム学科 教授  
山田 雄太 情報学部 総合情報学科 教授  
併任 教養部 教授  
伊藤 優 情報学部 総合情報学科 准教授

**〈事務職員〉(2021.4.1)**

大脇 崇浩 大学事務部長  
野島 大策 企画調整部 経理室長

### 【高校】

**〈事務職員〉(2021.4.1)**

片岡 智幸 総務部 高校事務室 主任部員

### ●称号授与

**【大学】**

**〈名誉教授〉(2021.4.1)**

堀尾 吉巳 (元工学部 電気電子工学科 教授)

## 「DAIDO CAMPUS」の表紙を 情報デザイン学科4年生の中西咲空さんがデザインしました!

2020年に中期計画の取り組みの一つとして策定がスタートし、立場や組織を越えた議論を重ねて決定した「DAIDO VISION 2030」。それが、「自分が変わる、未来を変える。」。

今春にはいよいよ新校舎X棟が稼働し、「自分が変わる、未来を変える。」を指針に、大同大学の新たな時代がスタートします。

1987年に創刊した本誌「DAIDO CAMPUS」も、前号で100号を迎えました。そこで、今号の表紙は「スタート」をテーマに、本誌発行元である入試部の次長を務める情報学部 情報デザイン学科 桐山岳寛講師の推薦により、同学科4年生の中西咲空さんにイラストデザインを担当して頂き、タイトルロゴは桐山講師にデザインして頂きました。

中西さんに、表紙デザインにあたって工夫したこと、苦労したことなどをインタビューしました。



— 今回、学内報「DAIDO CAMPUS」の表紙デザインを依頼されてどんなお気持ちでしたか?

**中西:**そのお話を頂いた時は、とにかく驚きました。「DAIDO CAMPUS」といえば、在学生や卒業生など多くの方が目にする広報誌ですので、そのような重大な役割がまさか私に...と、その日は疲れなかったことを覚えています。

— 今回の表紙デザインについて、コンセプトを中心にポイントを教えてください。

**中西:**今回の表紙デザインのコンセプトは「卵と発見」です。私もそうだったのですが、入学したばかりの学生は右も左も分からず、まだまだ未熟な存在です。未熟だけど無限の可能性があるということを卵でイメージしました。段々と夢や目標が明確になり、ぼやけていたものが次々と、はっきり形あるものに見えてくる。そんな学生生活を表現しようと、このようなデザインにしました。遠くから見ると卵の形に見えるものが、近くで見ると、卵を形成する中身が発見できる。そんな発見をしていただけると嬉しいな、と。ちなみに、このデザインの中で象徴的なシンボルがいくつか存在するのですが、実はこれは大同大学の学科・専攻を表しています。

どのシンボルがどの学科・専攻を表しているのか、ぜひ探してみてほしいです。

— デザイン案の制作にはどのくらいの期間がかかりましたか?

**中西:**3つの案をご提案させていただくことになりましたので、まずは3つのコンセプトを生み出す必要があり、2週間はかかったと思います。大同大学の歴史、学生の特徴、「DAIDO CAMPUS」のあり方、一新される表紙の方向性など検討事項が多く、とても大変でした。それから3つのデザイン案をおおまかに制作するのに大体2週間くらいでしょうか。その後の微調整を含めれば、トータルで2ヶ月くらいですね。授業や就職活動と同時進行でしたので本当に大変でした。

— 制作にあたって苦労したこと、大変だったことは?

**中西:**大学の授業だけでは体験することができないデザインのプレゼンテーションが大変でした。授業でも作品を紹介する際にプレゼンしますが、でもそれは制限時間、内容などある程度のフォーマットがある中でのことです。今回のプレゼンでは、どう伝えればよいのか、資料はどのように作成するか、など全てが自分に任せられ、授業以外でのプレゼンは初めてのことばかりで試行錯誤しました。プレゼン終了後、入試・広報室の方々に考えがしっかりと伝わったことがわかり、すごく安心したのを覚えています。

— 卒業後はどんなお仕事をしたいですか?

**中西:**私は企業や店舗のロゴマークの作成、商品のパッケージやホームページの作成など、クライ

アントが抱く企業・商品のイメージや理念を色や形で表現した、「ブランディング」というデザインの仕事をしたいです。ショッピングモールなどを歩いていると、ブティックや雑貨屋など、それぞれに独自の雰囲気や世界観がありますよね。物を売る、という目的は変わらないのに、ブランドごとにたくさんの違いが私たちには情報として伝わってきます。私はその情報伝達の力になりたいです。

— 最後に今回の表紙デザインを終えての感想をお聞かせ下さい。

**中西:**まずは社会人になる前に、このような貴重な経験をさせていただけたことに心から感謝しています。自動販売機のラッピングコンテストにデザインを採用していただいたこともそうなのですが、大同大学の良いところはこのような学生が活躍する機会を提供し、学生の夢を応援してくれる温かいところだと思います。私もその温かさに触れて、デザインに対する向き合い方や、自分に足りないものを見つけることができました。

制作は本当に大変でしたが、「DAIDO CAMPUS」という歴史ある学内報の101回目に私のデザインが採用されたことは私の思い出に深く深く残る出来事です。この経験を胸に、これからもデザインに真摯に向き合って成長していきたいです。



### タイトルロゴのデザインにあたって

#### 桐山岳寛講師(情報デザイン学科)

このタイトルロゴは、「自分が変わる、未来を変える。」から着想し、太く力強く前進する学生の未来をモチーフに作成しました。リニューアルした「DAIDO CAMPUS」では、表紙に学生のグラフィック作品を掲載するため、どのような作品が掲載されても埋没しないような太い線を採用し、中央揃えの配置とすることでパワフルな印象となるようにデザインしました。一方で、学生の多様な作品を受容できるよう、丸みや線の切れ目をデザインに取り入れ、柔軟性や軽快さも同時に伝えられるような仕上げとしています。また、各文字には毎号のテーマカラーを設定する仕組みを取り入れました。季節やトピックに合わせて表紙を演出できればと思っています。

DAIDO UNIVERSITY NEWS

**DAIDO**  
CAMPUS